

# 一般質問から

※ここに掲げている質問は、一般質問の一部を抜粋したもので、12月定例会時点での内容です。

## 自民党県議団



渡辺 勝将 (那珂川市)

**大濠公園能楽堂を活用した公園北側エリアの文化的な魅力向上と新県立美術館のユニバーサルミュージアム実現へどう取り組むか伺う。**

**A** 能楽堂の施設内だけでなく公園エリアも活用したイベントなどを考えている。能楽堂で公演がない時も大濠公園の眺望を楽しみながら飲食などができるサービスの提供を検討。ユニバーサルミュージアム実現に向けては、趣旨に賛同する個人、企業などにも参画してもらい、展示品の音声・点字ガイドの整備などプログラムの開発やサービス充実に取り組み。



井上 博行 (福岡市博多区)

**人件費率が高いサービス業などの価格転嫁に向けた理解促進と機運醸成への考えを伺う。**

**A** 価格転嫁への理解促進を図るため、先月、私も「価格転嫁の円滑化に関する協定」を締結している13団体の先頭に立ち、街頭啓発活動をした。「賃金と物価の好循環」を解説した新聞広告の掲載など広報・啓発活動にも取り組んでいる。業界の機運醸成のため、価



江頭 祥一 (嘉麻市)

**格転嫁のスキルを持つ専門家を招いて業界ごとにセミナーを開催、業界で価格転嫁に取り組む必要性や成功例を紹介している。**

**A** 創業をはじめバイオ分野の研究開発は長い期間と多額の資金を必要とする。開発期間の短縮とコスト削減のため、AI・デジタル技術の活用は極めて有効で、活用に向けた機運醸成に取り組んでいる。本県はバイオ関連産業の集積が進むほか、ITスタートアップが集積しており、バイオ分野に技術を生かすポテンシャルを備えている。バイオスタートアップのさらなる成長のため方策を検討していく。



吉田 浩一 (福津市)

**専修学校と地域の共生を推進するために取り組むのか。**

**A** 専修学校の設置認可を申請する際には、設置について地域に丁寧な説明するよう要請。既存の学校で地域とのトラブルの苦情などがあれば、県は状況を確認し、解決に向け適切に措置するよう学校に助言している。また、専修学校各種学校協会に、学校と地域との共生促進を検討するよう文書で依



永川 俊彦 (大牟田市)

**今回のパリ訪問を踏まえ、欧州をターゲットとした誘客促進策をどう展開するのか。**

**A** パリでの観光セミナーで多くの意見や提案をいただいた。まず、大相撲九州場所の活用。大相撲観戦をきっかけに福岡を訪れてもらえるよう、ツアー造成に向け働きかける。2点目は、韓国・仁川国際空港を活用した旅行商品の造成。韓国観光をして福岡に入る新たな周遊ルートも提案していく。3点目は、食や伝統工芸を生かした誘客。食のイベント開催など誘客拡大策を検討する。



高橋 義彦 (飯塚市)

**遠距離の医療機関で不妊治療を受ける人への交通費の助成についての考えを伺う。**

**A** 不妊治療は、女性で一ヶ月周期当たり5回から12回の通院を要することから、不妊治療を実施する医療機関が近隣にない場合は、移動にかかる交通費の経済的負担が大きくなるのが考えられる。このため国の令和8年度予算で、交通費助成の不妊治療への拡大が検討されている。県は、国の動向を注視するとともに、医療機関に対し、どのくらいの人が遠距離通院しているのか聞き取りをしている。



花田 尚彦 (宮若市)

**拉致問題への県の取り組みと人権教育について伺う。**

**A** 県は毎年、無料の講演会を主催し、県庁での写真・パネル展などを行っている。拉致問題の記載のある社会科学の教科書をすべての公立小中学校で使用し、拉致問題啓発アニメ「めぐみ」を教材とする指導者用資料を配布している。教員などに向けたセミナーにも毎年参加。指導にあたっては、北朝鮮や北朝鮮にルーツのある人に対する偏見や差別につながるのではないよう十分留意する必要があると考えている。



佐藤 楓 (北九州市小倉南区)

**南海トラフ地震への対策について伺う。**

**A** 南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されている北九州市、苅田町など6市町に防災対策推進計画の作成支援などを行っている。大規模地震発生時には、関門橋や関門トンネルの通行止めにより陸上輸送による本州からの支援が滞ることも想定され、九州各県や自衛隊などとの連携が大変重要。九州・山口各県と「災害時相互応援協定」を締結。自衛隊などとのトップ同士が情報交換できる関係を築くなど連携強化を図っている。



波多江 祐介 (筑紫野市)

**鳥獣被害対策について伺う。**

**A** 鳥獣による農産物被害を軽減するため、侵入防止柵の整備やわなの設置、獣肉の消費拡大などを支援。侵入防止柵はこれまでにワイヤメッシュ柵や電気柵が約9300キロメートル整備されている。このうち今年度に耐用年数を経過するのは昨年度の約2・



宮川 宗一郎 (福岡市城南区)

**部活動の地域移行に向け、指導者の人材バンクにどのような効果期待し周知を図っているのか伺う。**

**A** 人材バンクには、指導者の専門競技や指導歴、資格、居住地、指導できる曜日などの情報と、指導者を求める地域クラブの詳しい紹介や求人情報を掲載。指導者とクラブが直接やりとりできるチャット機能を盛り込み、広い範囲でのマッチングが期待できる。直接登録を働きかけるほか、県のホームページや公式SNSなどで周知し、全市町村や地域クラブ向けに説明会を開く。

## 民主県政県議団



亀崎 大介 (糟屋郡)

**子育てに悩む父親への支援について知事の認識を伺う。**

**A** 国の調査では、こどもが生まれた後に精神的な不調から産後うつになる父親は10人に1人と母親と同程度の割合であり、子育てに関する悩みや不安などへの父親向け支援の必要性が高まっている。県では「パパのための子育て相談ダイヤル」の開設や市町村担当者への研修、各保健所で行



渡辺 美穂 (太宰府市)

**自転車による飲酒運転の検挙状況の分析結果と今後の対応を伺う。**

**A** 地区別の検挙件数を人口1万人当たりで見ると、最も多いのが福岡地区の約3・7件、次いで筑後地区の約1・8件、北九州地区の約1・1件、筑豊地区の約0・7件。男女別では男性が約9割、年齢別では40代が最も多く、時間帯別では午前0時から午前2時までが最も多い。引き続き自転車指導啓発重点地区・路線をはじめ、繁華街や駅周辺などで指導啓発活動を行うとともに、悪質・危険な運転者の交通指導取締を行う。



新井 富美子 (久留米市)

**ふくおか医療情報ネットワークの機能を改善すべきと考えるが知事の見解を伺う。**

**A** 県の「ふくおか医療情報ネットワーク」は、厚生労働省のシステムを活用し、希望する診療科と地域を指定して、女性医師による外来診療が可能な医療機関を検索できる。検索の仕方が分かりにくいという点などは、今後の改善に合わせ、円滑に検索できるように操作方法を分かりやすく示すなど改善を図る。また、診療科目などの登録情報が最新の情報となるよう医療機関に働きかける。